

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 繁文

No.723

2025年12月18日

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- どうしてか伝えたいこと ⑤ ページ 2
- 絶対謝(誤)らない人 5
- 「鶴見俊輔全詩集」ほか 6
- 中国機、海上機にレーダー照射 10
- ち便りから 12
- 山仕事(12月、島田市) 15
- 只見線で蒲生岳 17
- 日・中外交力の差 20
- せめて昭和くらいの平和教育を 21
- 農家5年前から25%減 22



山頭火 しまりあままで
さあさまよ
に地蔵ま

メール配信をご希望の方は、
<suzukikosei.san@gmail.com>へ。
三宅伊都子さんが
応対してくださいます。

題字 故佐村隆英和尚(元千葉県長柄町本光寺住職)
力ツト 故泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リングラフ RZ 330

* この号の切手は、グリーティング(冬)

山仕事(12月、島田市)

過去30年にわたる正士さんちの山仕事で、今回が最悪の体調だった。テニスの転倒による脳への懸念は消えたものの、病院で貰ったのか珍しく風邪とみた。

12月8日の出発前夜、咳と頭痛でほとんど寝られず、食欲もない。「やめようか」とも思った。しかし、今年最後の山仕事。気力を奮い起こして家を出た。

12月9日(火)。天浜線敷地駅で久米、若林さんに迎えられ、先月に続いて深澤明男・富士代さんのミカン園「豊田農園」へ。今回も大袋二つのミカンをいただく。

深澤さんは元来、同じ静岡でも東寄りの「由比」でミカン園を経営していた。その後、新天地を求めて豊田村(現磐田市)にやってきた。現農園の北側、茶農家の市川祐一さんから土地を譲り受け、父君と共に由比から通いながら松林を開墾。豊田村初のミカン園を開園した。

市川さんは、伊藤英雄さん(エビ芋とネギの農家)などと「農研とよひか屋」を結成。グループのリーダーとして、金原志郎の「キッチン味里」を根城に村の将来を語り合った。まじめで誠実なところのある人だったが、ほゞなく自死。

深澤さんは生ぬるきではないが、人柄の良さで人望も厚く、農産物直売所「豊田これまで元気村」の村長をつとめるなど、地域に欠かせない人となった。

また、東日本大震災以前から福島県飯館(いいたて)村に通い、暮れのもちつきなどを交流を続けている。福島原発事故で村に住めなくなった酪農家長谷川さんを招いて講演会を開いたこともある。

豊田村初のミカン園として当初、販売に苦労。村内のゴルフ場で富士代さんとミカンを売ったり、ミカン樹のオーナー制度を始めたたりと苦労をされた。努力の結果、甘酸相和す品質の良さが認められ、今では常連客も買ひそびれることがあるほどになった。

その深澤さん、正士さんも山仕事を応援して下さる、ありがたいことだ。

その後、遠鉄ストアで買物。この日は作業をせず、翌日の島田行きに備え、道具の手入れなど。体調の悪いぼくは、日向ぼっこしながらの見学に終始。これから、こんな場面が増えるそうだ。

磐井市の「和(やわらぎ)の湯」へ行き、久米、康江さんが調理してくれた夕食を頂く。

(夕)マグロの刺し身、寄せ鍋、竹中さんが育てた大根と柿のなます、大根葉のゴマ油炒め、紀文の姫とうふ、ジャガバの明太子和えとにゅうめん。

食後、竹中さんから来春実施予定の薄湯のバス田改造計画の説明を受ける。主眼は、バス田周囲に木道を設置することと、冷たい山水をあたためるために滝壺池づくりだ。

12月10日(水)、快晴。天気はよいが、のどは痛い。前で島田市の小澤卑江さん宅へ。/時間ほどで到着。

屋根にからひツタの整理組と竹伐り組に別れて作業にかかる。

このモウリウ竹は、太いのは径が20cm前後との文、/行が約15cm、紙の幅が約18cm)にむすり、枯れ竹も多い。密生した竹の間隔を空け、タケノコが出やすいようにするのと、中を歩きまわり易くするのが目的。

ぼくは専ら見学。鎌の刃が食われるなど時に手伝うが、ほぼ見学。

お昼は、例によってさまざまご馳走を頂く。覚えきれば、紹介できないのが残念。卑江さんがぼくに何度か渡方めいた飲み物と塩湯うがいの微温湯を用意して下さった。

午後は、少し作業に参加。15:45終了。タケノコの缶詰を頂き、太平に戻る。

皆さん「あらたすの湯」に出来、久米さんは一人、台所で夕食の支度。ぼくは母屋で布団をかぶる。

夜、青山、答史さんも見え、夕食。答史さんから、隣家の^{うし}五雄さんが亡くなったと聞く。名前から、ぼく(寅)より1年上と推測。ご冥福を。

(夕)マグロの刺し身(竹中さん提供)、同マグロのかま煮、山芋のガレット、スペニッシュオムレツ(16年前、秀子・秀人さんヒサンティアゴ・デ・コンポステラを歩いた時を思い出す。あの朝の温いオムレツ、おいしかったな)、寄せ鍋、エノキ茸ヒカクレの和え物、キハダのづけとおじや。

12月11日(木)、うす晴。早朝、答史さん出勤。/月は、一緒に東垂れで菜園にかかるサクラを整理する予定。

この日、山崎さんは灯油、洗剤などの買物、若林さんは道具のメンテナンス。以前は、ぼくらが帰った後、一人でチェンソーや草刈り機の整備、鎌の刃研ぎなどをやってくれていた。いま、ぼくを除く皆さんが手入れをしてくれる。言わず語らず原田さんを中心て有機的に動く、すばらしい仲間達だ。

原田、竹中さんとぼくは、井戸の谷(菜園)の草刈り。草がおとなしくており、30分余りで終了。ぼくも、少し樂になってきた。

次に、原田、竹中さんは、ワゴン車庫の柱に、布団干し用の竹竿をとり付ける。

(夕)あんかけ焼そば、きのこのスープ、シタケの煮しめ。

久米、若林さんに救急駅まで送ってもらい、お別れ。この1年、お世話をありがとうございました。また来年、元気で一緒できるよう頑張ります。



ねこのて

一昨日は雲の中だった富士山。上部の次筋だけ白い姿。

安東明子さん